

日本共産党区議会議員



伊藤和彦です

自宅 足立区花畑6-20-1 電話3859-6952
 足立区役所 電話3880-5111 (内線4650~4654)
 日本共産党区議団 直通3880-5770
<http://www5.familye.ne.jp/~k-itou/index.html>

決算特別委員会の論戦から その2

伊藤和彦員の質疑要旨は次のとおりです。



決算委員会で質問する伊藤和彦区議

地域コミュニティの力になっている 生きがい奨励金は4000円に戻せ!



質問する伊藤和彦区議

質問「生きがい奨励金」は、高齢者に対し生きがい奨励金を支給し、もって生涯を通じ自らを高め健康で充実した人生を送るための生涯学習活動、地域活動、福祉活動への参加を促し、支援することを目的とする。

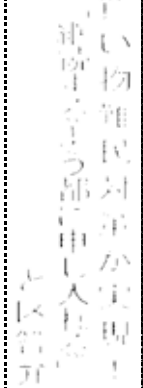
わが党は、生きがい奨励金を削った条例改定に反対し、「元の4千円に戻すべきだ」と本会議で質問したが区は「戻す考えはない」と冷たい答弁だった。「生きがい奨励金」は商店街からも期待されている。商業団体役員からは「誰が削ったのか」との声があったほどだ。更なる活性化を図る足立区内商品券の支援が求められ、商店主からは「プレミアム商品券はまとめ買いをしているのが多い。生きがい奨励金は高齢者が近くの商店で使ってくれるので1千円減らされたのは痛手だ」といっている。この声をどう受けとめているのか。

答弁「確かに商店街の立場からすれば生きがい奨励金が流連する金額が多ければ多いほどよいわけだが、様々な高齢者支援の課題の中でこのような整理をした」と説明し、基本的には役員の方々納得して進めている。

質問「役員さんが痛手だ」と元に戻すべきではないかと思うがどうか。

答弁「生きがい奨励金の削減金額については、先の議会でも説明して了解いただいたとおり。特段の事業の変化もないので金額について変更する考えはない。」

質問「区は「生きがい奨励金」を「肺炎球菌ワクチンを実施する」との理由で削減したが、肺炎球菌ワクチンは5年で1回だけ。奨励金は毎年行われるものだ。高齢者支援にもなっており、地域コミュニティの力にもなっている。生きがい奨励金」は元の4千円に戻し地域活性化につながるようすべきだ。」



次に買い物難民対策について聞く。わが党はこの問題をくり返し取り上げてきたが、今回「モデル事業」として実施されたことはうれしく感じた。

「買い物支援サービス事業」の花保商店会の取り組みは、南花畑の「お休み処が出来た」というので懇談してきた。事業を進める中で新しく商店会に加盟した店が13軒増えたといっていた。買い物が出来ない高齢者などに宅配するしくみも出来たと、喜んでいて。区はどんな努力をしたのか。

答弁「都の新規事業の買い物支援サービス事業は、



支障サービス事業は、昨年度全商店街に制度の紹介をした。手を上げていただいたのが花保商店会で、商店会と活動の主体となる地域の老人会、行政等での間何回も説明して了解をいただいていた。現在も打ち合わせをしている。

議会報告と懇談会

10月28日(日) 午後2時~4時
遊学舎 (花畑6-20-1・伊藤方)

11月17日(土) 午後4時~6時
楓センター (保木間3-17-13・佐藤方)

お話しする人



伊藤和彦区議

大島よしえ都議

議会や情勢など報告し懇談します。だれでも

お気軽に。ご参加をお待ちしています。

質問「すでに軽自動車借りて、老人会」が中心となって運転手10人がローテーションを組み、「買い物」をしたい」の連絡が入れば「生鮮三品」など買い物して、「ドアツウドア」で届ける。準備中だったが、チラシや看板を作って和気あいあいとしていた。都の事業と聞くが足立のほかにやっている区はどこか。区の総事業費はいくらで、都と区の割合、商店街への負担割合は、どうなっているのか。

答弁「足立区のほかに、品川、練馬の今年度は区指定、総事業費は、足立区は680万円の予定で、負担割合は都が2分の1、区と商店会が4分の1つとなつていて。練馬区の場合は800万円で、負担割合は当区と同様、品川区の場合は総事業費200万となっている。」

質問「足立区は新たに要綱をつくり、商店街の負担を10分の1と軽くした。花保商店会会長が「来年3月で事業終了してしまうので、引き続き出来るようにして欲しい」と言っていた。買い物難民対策として1回きりではなく、事業継続をすすめるべきと思うがどうか。」

答弁「継続することが大事なので、都にも申し入れている。当区においてはちょっとお休み所が開設したばかりでこれから対象地域にサービス利用をご案内させていただくことが慣用。そして今年度の事業評価を適正に行ない来年度に関して評価していきたい。」

質問「難民地域に関してはほかに鹿浜、小台、中央本町、花畑などもあるのでぜひ継続していただきたい。」

次に、食べ物などで「足立産」を支援し地域産産を盛りたてるのはどうか。浜松市は全国で一番餃子の消費量が多いことから「浜松餃子」を全国に発信しようと、「ポラントニア」ががんばっている。「若者」はかき・よそ者と言っていて、若者が盛り立て、

